

平成 22 年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 コース等名 学校・学級経営コース

氏 名 佐古 秀一

プロジェクトの名称	地元学校と連携した学校組織改善プロジェクト	配 分 予算額	600,000 円
プロジェクトの概要	高度学校教育実践専攻（教職大学院）は、地元学校、教育委員会との連携を進めることが求められ、それに対応するため、様々な取り組みを行っている。平成 20、21 年度に特別教育研究経費「学校改革支援チームによる地元学校への支援」の指定を受け、鳴門市、北島町、松茂町、藍住町の教育委員会と学校を対象とした連携を行ってきた。具体的には、平成 20 年度に義務化された学校評価の円滑な実施に関する支援業務を実施してきた。また、支援した学校の中に、アンケート集計等だけでなく、学校の課題設定、実践、その評価に関して、より専門的な立場からの支援を求められるようになった。 そこで、さらなる支援を求める学校を中心に、学校の組織改善を図る共同研究を進めるための条件等を整理するとともに、実際に、その効果を検証することにより、大学と学校、教育委員会のさらなる連携の在り方を探究することとした。 プロジェクトは、次の二つの取り組みを中心に進めた。 （１）学校評価に関する支援の在り方についての研究 昨年度の 1 市 3 町の学校に加え、板野町、上板町において、学校評価の支援を求める学校に対して、調査設計、実施後の集計、分析の支援を行う。今年度は 26 校の支援を行った。 （２）学校組織改善研究の取り組み 1 市 5 町の学校から数校、研究協力校（3 校程度）を定め、学校の組織改善について、大学が関与する。その際、教職大学院に派遣されている院生に協力を求め、大学と学校が協働した学校組織改善の研究を進める。		
成 果 の 概 要	成果について、上記の二つの観点から報告する。 （１）学校評価に関する支援のあり方についての研究 学校評価は、平成 20 年度から義務化され、どの学校においても学校評価に基づく学校運営が求められているが、多忙な現実の中で、多様な問題を抱えている。依然として、児童・生徒、保護者に対してアンケート調査を実施し、その結果を報告するだけで終わっている学校も多い。 今回、学校評価に対する支援についてのニーズ調査を行ったところ、1 市 5 町の小中学校 47 校中 26 校（小学校 21 校、中学校 5 校）から必要であるとの回答を得たので、これらの学校に対して。アンケート調査の集計、分析を大学がサポートした。学校評価に対する支援は、学校評価項目の設定、集計、分析にまで及んでおり、大学の有する専門的な知識を実践場面に還元する機会ともなっている。そのような大学の支援をもとに、学校の取り組みを振り返り、次年度への改善につなげる学校も多く見られ、学校評価支援の必要性和有効性が確認できた。次年度以降も、学校評価に関する支援への要望が強く、学校評価等の学校改善を支援する大学側の体制づくりをすすめることが、今後の課題であるといえる。 （２）学校組織改善研究の取り組み 学校組織改善への支援事例のうち、K 小学校を例に報告する。 K 小学校は、学年 1 クラスの小規模な学校であり、今年度、管理職が代わり、新しい体制のもと、実践を進めることとなった。地域とのつながりも深く、様々な実践に取り組んでいるが、学校に対して、子どもにさまざまな問題があったり、肯定的に見ていない保護者がいたりするなど課題が残されていた。年度当初に学校としての重点目標を設定したが、十分浸透せず、日々の対応に追われている状況であった。そこで、次年度に向け、学校の課題を共有し、取り組みの行動計画を立てる取り組みを支援した。 ○取り組みの概要 １）学校の実態把握 K 小学校では、次年度の重点目標の設定に向け、児童、保護者、教職員に対して、アンケート調査を実施することとした。 ２）重点目標の設定 K 小学校では、2 月に 2 回校内研をとり、学力面および生活面について、１）の情報をもとにして、学校の取り組み、児童の実態のよい点、課題となる点を整理するワークショップを持った。 ３）年間計画の作成 上記の重点目標を受けて、それらを年間の中でどのように取り組んでいくか、現在検討を進めている。学校全体として、重点目標を共有し、着実な取り組みを実行し、その効果を検証し、改善を図る。PDCA サイクルに則った学校運営の推進に向け、ロードマップが作成されつつある。 ○成果と課題 大学側からの支援により、子どもたちの実態をもとに、成果と課題を挙げ、その背景をとらえ直し、次年度の重点課題を設定するワークショップを開催することで、教職員の意識の統一がすすめることができた。 以上のように、本プロジェクトを通して、教職大学院の実習指導等に関して緊密な連携を実現する必要がある、鳴門市、藍住町、北島町、松茂町の学校に対する支援を推進することができた。これによって、大学とこれら地域の学校との一層の関係構築が進展したと考えられる。		

区 分	品 名 等	規 格 等	数 量	単 価	金 額（円）	備 考
備 品 費						
小 計						
消 耗 品 費	書画カメラ L-1EX ワイヤレスタブレット オリンパス バッテリ BLS-1 モバイルルータ CQW-MRB コンピュータソフト オリンパス M.zuiko14-42m/mII（ブラック） ダブルクリップ フラットファイル 通信アダプタ 謝金	ELMO L-1BX MSノート 資料整理	2 2 1 1 2 1 18 1 1 383	61,950 22,470 5,870 6,300 5,565 29,800 117 54 39,570 800	123,900 44,940 5,870 6,300 11,130 29,800 2,106 54 39,570 306,400	
小 計					570,070	
そ の 他	旅費	福井大学等	1	29930	29,930	
小 計					29,930	
合 計					600,000	